

中等教育研究センターの活動報告

中等教育研究センターは、名古屋大学と附属中・高等学校を橋渡しするために、大学院教育発達科学研究科内措置として設置された組織です。その目的は、同研究科が長年取り組んできた中等教育研究の蓄積のうえに立ち、高等教育の充実のために中等教育をどのように改善していくかについて、総合研究大学内の附属学校をフィールドとして、先導的な実験研究開発をおこない、理論的・実証的研究成果を全国と世界に向けて発信していくことです。

<研究内容>

- A. 中等教育と高等教育の接続に関する研究：中高大の連携を核として、大学における教養教育の基礎としての中等教育の課題、進路選択、キャリア形成など。
- B. 中等教育諸学校の研究：総合的学習や新教科を中心としたカリキュラム開発をはじめ、学力・評価の問題、青年期発達の諸課題など。
- C. 中等教育の国際比較：上記A・Bに関する国際比較研究と、それを踏まえた日本の中等教育の再検討など。
- D. 中等教育の教師教育：国内での教員養成の検討をはじめ、現職教育、さらには教員研修留学生やJICAプログラムによる世界の中等教育の教員及び教育行政官の研修のプログラム化など。

<センター組織>

○運営委員会

教育発達科学研究科の附属学校運営委員会委員と附属学校の教育研究委員会委員が中等教育研究センター運営委員会を構成し、センターの運営に関わる諸事項について審議を行う。

○研究委員会

運営委員会で承認された「研究員」が「研究委員」として中等教育研究センター研究委員会を構成し、センターの研究に関わる諸事項について審議を行う。

○研究協力員

校内・学外の研究者や教育実践者のなかから委嘱された「研究協力員」は、中高大連携による大学研究室開放や出張講義、授業開発、カリキュラム開発など、中等教育研究センターの研究諸活動をさまざまな形で支援する。

<経緯と取り組み>

1999（平成11）年

4月：教育学部内措置により中等教育研究センターを設置、内規制定。

5月：教育学部創設50周年記念シンポジウム「新しい中等教育学校の構想」（主催・教育学部）。

2000（平成12）年

4月：大学院重点化により、教育発達科学研究科内措置による附属中等教育研究センターとなる。

2001（平成13）年

3月：『中等教育研究センター紀要』第1号発行。

2002（平成14）年

3月：『中等教育研究センター紀要』第2号発行。

4月：「中等教育研究開発センター」概算要求提出。

6月：国際教育フォーラム「中等教育改革の国際比較」（研究科と共同）。

7月：センター内規を改定し、研究（委）員および研究協力員体制で研究組織の整備充実をはかる。

9-10月：研究員・研究協力員を対象に「大学が期待する高校生の学力」に関するアンケート実施。

10月：全学向けの附属学校オープン・クラス第1回（附属学校と共同）。

11月：「大学の知と高校生の学力」に関する全学シンポジウム（研究科と共同）。

2003（平成15）年

3月：「中大連携研究会・附属問題緊急フォーラム」（附属学校と共同）。

3月：『中等教育研究センター紀要』第3号（全2分冊）発行。

4月：センターに事務局開設。

5月：附属学校総合情報教育棟2階西側に、センター室開設。

5月：全学向けの附属学校オープン・クラス第2回（附属学校と共同）。

6月：地球市民教育研究会発足シンポジウム「地球市民教育と総合的学習」。

7月：附属学校における調査研究協力についてのオリエンテーション・H15年度後期実施分（附属学校と共同）。

8月：中高大連携課外講座「学びの杜」の単位化に向けた試み（附属学校と共同）。

10月：全学向けの附属学校オープン・クラス第3回（附属学校と共同）。

10月：センター・オープニングセレモニー。

12月：中高大連携課外講座「学びの杜」の単位化に向けた試み（附属学校と共同）。

2004（平成16）年

2月：附属学校における研究協力についてのオリエンテーション・H16年度前期実施分（附属学校と共同）。

3月：キャリア教育に関する公開シンポジウム「進路指導からキャリア形成へ：生きる力を育む中等教育課題—『フリーター』問題が問いかけるもの—」（研究科と共同）。

3月：研究成果発表会・H15年度実施分。

3月：中高大連携課外講座「学びの杜」の単位化に向けた試み（附属学校と共同）。

3月：『中等教育研究センター紀要』第4号発行。